

世界 400 カ所でプロジェクトが一斉スタート

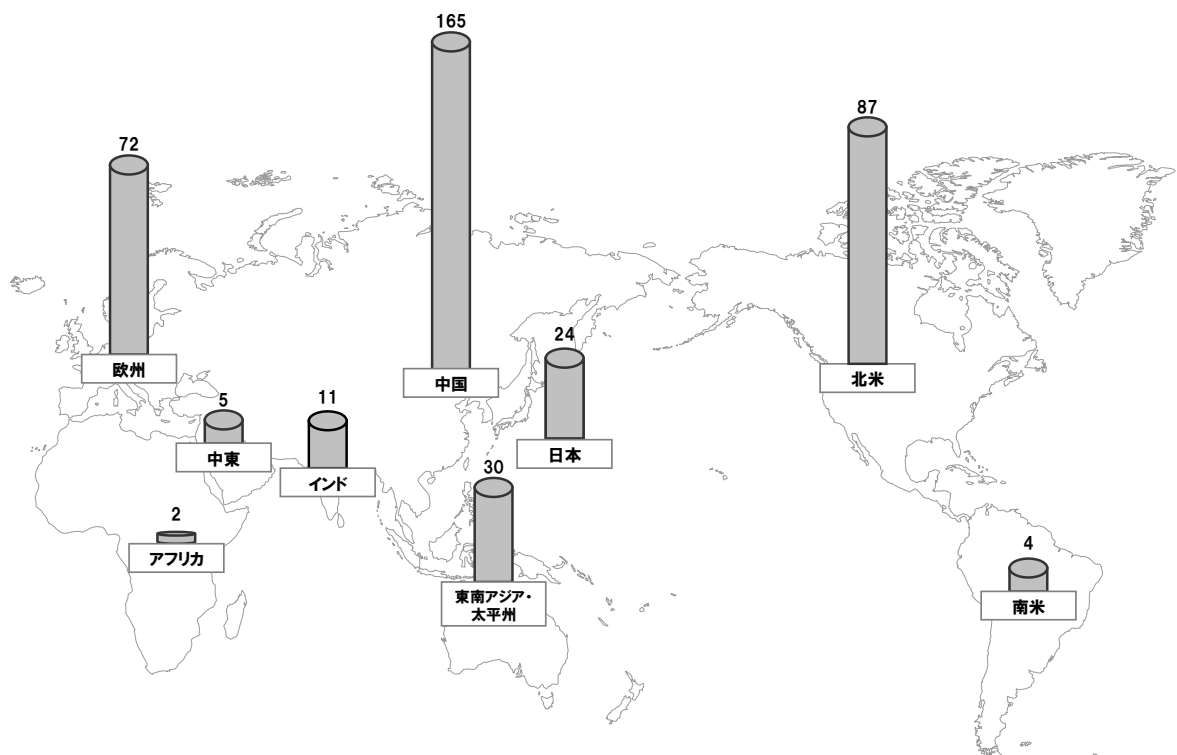
スマートシティとは、ICT（情報通信技術）を駆使して、エネルギー、下水道、交通といった社会インフラを効率的に整備・運用する都市のことだ。これにより、住民の生活の質向上と共に、CO₂ や廃棄物の排出量を減らして持続的な成長を目指す。人口増加や高齢化、都市化といった問題を解決する手段として、先進国、新興国問わず、世界で一斉に都市をスマートシティ化する試みが始まっている。

こうして世界中のいたるところで始まったスマートシティ・プロジェクトをリストアップすると、世界 35 カ国から 400 のプロジェクトに上る（図1）。国・地域別に分布を見ると、新興国については中国を筆頭に 237 プロジェクト、先進国については米国を中心に 163 と新興国の方がよりスマートシティ化が盛んである。

新興国では、人口増加に伴う都市への人口集中に対応するために、環境負荷を低減した形で新しい都市を作ろうという機運が高まっているからである。現時点で最もスマートシティを志向しているのは中国だが、インドでも今後の都市計画の中で盛り込もうとしている。さらに、将来的には他のアジア地域、将来的にはアフリカ諸国にも波及していくだろう。

先進国では、地球温暖化に対応するための低炭素社会への移行、少子高齢化に伴う高齢者や健康対策などの観点を盛り込んだスマートシティ・プロジェクトがスタートしている。

先進国がスマートシティに注力するもう一つの目的は、新興国が都市開発を行うマスタープランの段階から入り込んで、各種の技術を盛り込んだスマートシティをパッケージ輸出することである。



（作成：日経BP社）

図1 スマートシティ 400 プロジェクトの世界分布

国家戦略としてエコシティを推進している中国が 165 カ所で最も多く、続いて米国・カナダの北米の 87 カ所、欧州の 72 カ所と続く。